

明日の安心は、みんなの支え合いで

国保からのお知らせ

☎ 住民課保険係
☎ 22-7761

保険証の切替時期

保険証の切替時期になりました。現在、加入者をお持ちの国民健康保険証(桃色)の有効期限は平成26年3月31日です。新しい保険証(薄緑色)は、3月末までに簡易書留で郵送します。不在やあて先不明などで保険証がお手元に届かず、役場に保管されている場合がありますので、ご不明な場合はご連絡ください。

国保税を年金から天引き

国民健康保険に加入する65~74歳の人を対象に、保険税を年金から天引きしています。特別徴収(年金天引き)の対象者は次の①~③に該当する人です。

- ① 世帯の国保加入者全員が65~74歳の場合(世帯主が国保に加入している人)
- ② すでに介護保険料が年金から天引きされている65歳以上の人(年額18万円以上の年金受給者)
- ③ 国保税と介護保険料の1回当たりの合算額が、年金額の2分の1を超えない人

※①~③に該当する人は「特別徴収(年金から天引き)」の対象者ですが、本人の希望で口座振替で納付することもできます。ただし、口座振替変更後に引き落としができない状態が続く場合は、年金からの天引きに戻すことがあります。

こんなときは2週間以内に届け出

退職などで健康保険がなくなった

▶ 加入していた健康保険がなくなった場合は、加入していた健康保険の喪失日が分かる書類、印鑑、本人確認書類が必要です。

就職などで新たに健康保険証ができた

▶ 新たに健康保険証ができた場合は、新しい健康保険証、それまで加入していた国民健康保険証、印鑑をご持参ください。

転居などで世帯が変更した

▶ 転居などで国民健康保険加入の世帯が変更した場合は、国民健康保険証、印鑑をお持ちになり、届け出をお願いします。

国民健康保険証が複数必要

▶ 学生や施設入所などで保険証が複数必要なときは、届け出により別に交付されます。保険証、在学(入所)証明書、印鑑が必要。

※委任状などが必要になる場合もあります。

新しい保険証の色は「薄緑色」。医療機関に受診するときは、前年度「桃色」の保険証と間違えないように、窓口で掲示してください。



70~75歳未満の人の窓口負担割合の変更 平成26年4月1日から下記のとおり自己負担割合を変更します

年齢	自己負担割合	4月1日以降の高齢受給者証について
昭和14年4月2日から昭和19年4月1日までに生まれた人	1割【変更なし】 ※現役並み所得者は3割	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己負担割合が1割の人のみ新しい高齢受給者証を保険証切替時に同封します。 ② 高齢受給者証の一部負担金の割合欄には「2割(75歳到達まで特例措置により1割)」と記載されます。 ③ 自己負担割合が3割の人は変更がないため、送付いたしません。お手持ちの高齢受給者証を引き続きご使用ください。
昭和19年4月2日以降に生まれた人	2割【4月1日から変更】 ※現役並み所得者は3割	<ul style="list-style-type: none"> ① 70歳の誕生日の翌月1日(1日が誕生日の人は誕生日)から適用となります。該当者には町から通知を行います。 ② 高齢受給者証の一部負担金の割合欄には「2割」と記載されます。 ③ 昭和19年4月2日~昭和19年5月1日生まれの人 ⇒適用開始日は平成26年5月1日となります。通知は平成26年4月中旬に行い、4月下旬に窓口交付を行います。

・毎年8月に所得区分の見直しを行うため、高齢受給者証の有効期限は7月31日まで(75歳になる人は誕生日の前日まで)となっております。
・7月の下旬以降に新しい高齢受給者証のみ送付いたします。

福智の風

▶「山をあなどるなかれ」。よく聞くフレーズですが、今回はその言葉が痛いほど身に染みました。冬山は今回が初めてだったので、平地の気温が10度を越していたので、軽装備で山へ。すると山頂付近は何と積雪約50cm。何度も転び、帯同者から雪道用の登山道具を借りる羽目になりました...そんな私から一言、「山をあなどるなかれ」。(久原)

▶日々の忙しさを優先し、災害への備えや意識は薄れてしまいがちです。しかし、東日本大震災はそんな日常に突如発生し、多くの命を奪っていきました。2月の関東地方を襲った大雪など、災害は場所や時期を問わず発生します。自身や大切な人の命を守るためにも、ふと足を止めて、日常を見つめ直すことも大切なのではないのでしょうか。(相原)



中央保育園第5回卒業式
提供者●木村 美和子
撮影日●昭和29年3月20日

方城炭鉱青年学校跡(現在の地域交流センター)に発足した中央保育園。園児数は200人を超え、多数の保護者の勤労と育児を支えていました。現在の場所には昭和37年4月に移転。

昔の写真を探しています!
☎ 総務課広報・広聴係
☎ 22-0555

横道へそれる散歩や梅の花
童謡の町の時報の雑祭
髪カット春のみ空の青きこと
透明の雫の如し新酒かな
初午の御神酒にほろと酔ひにけり
彼方まで伸びし麦の芽下校の子
春の日や忘れ潮にもある懐古
受験子のお伴手作り縫ひぐるみ
過ぎし事忘れることも老いの春

池田 一步選
吉田 弘
千手 弘子
大久保 幸子
小場 妙子
丸山 鈴子
熊谷 カツミ
米原 ふさ枝
芳野 モト子
池田 駒女

御慶まづ遺影の夫と交しけり
葉牡丹に集まる日差し渦巻けり
雪の嶺神の白さと仰ぎけり
獅子舞の尻尾元気に邪気払ふ
下駄鳴らし外湯を巡る頬被り
凍滝を畏敬の念に仰ぎ見る
添へ書さに元気ですかと賀状書く
飾取り初心に戻る習ひごと
還暦を迎へ双六振り出しに
修験者も天狗も駈けし山眠る

岩井 鬼童選
仲谷 ひろえ
長副 美恵子
松岡 萬枝
西田 真美
小川 雪
今井 三千代
山本 空木
桂 啓子
岩井 ひさ幸
建部 三由紀

簪の玉とも見えて藪柑子
来し方を吊辞にこめる寒の雨
読み初めや古歌の終りの妻を恋ふ
どんど焼竹のはじける音空へ
軒下の鉢窮屈に春を待つ
欠伸してピオラ畑の春近し
恵方巻一途に願ひ食べけり
ピオトープいのち枯野に潜めける

池田 一步選
杉 フジエ
長尾 冴子
藤井 耿之介
渡邊 一枝
尾崎 和子
木村 誠一
倉石 嘉代子
白石 凡子

四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

タンポポの一輪庭に咲き初めし菜の花待たる光にかがやく
紅椿雪の間に顔を出す紅き唇の乙女のごとき
祖父の手に節分の豆にぎらせば開かぬ目より涙ながるる
回診の主治医の目ざしおだしかりわが胸内に安堵ひろがる
道の端の秋明菊は綿毛つけ行き交う人に語るごとゆるる
蠟梅の裾を彩る水仙の寒き庭の辺そこのみの春
祖母に聞く昔話はおもしろし小学生への童話ならむや
生きゆくをおのが力と思ひしが米壽むかふは「運がよかつただけ」

前田 信子
高村 三也
八代 範夫
白石 信子
福田 キヨ子
越智 早苗
白石 清和
福田 昌

ともしび短歌会短歌詠草